

北島滋先生のご退職にあたって

北島滋先生は1944年北海道にお生まれになりました。先生は1968年に小樽商科大学商学部をご卒業後、1971年法政大学大学院社会科学研究科社会学専攻修士課程修了（社会学修士）、1976年博士課程単位取得退学を経て、同年4月旭川大学経済学部講師にご就任し、1978年から同学部助教授をお勤めになった後、1983年10月に宇都宮大学教養部に着任なさいました。1989年8月には教養部教授に昇任なさっています。

先生は、1994年10月の国際学部設置にともない国際学部にお移りになりました。新学部構想にはかなり早い時期からお関わりになっていたようで、その果たしたお役割とご苦勞は、私のような国際学部設置後に赴任した者にとっては想像をこえるものがあつたと存じますが、まさに国際学部の礎を築いてくださったのが先生であることは間違いありません。その後も、宇都宮大学評議員（1994年10月～1998年3月）、宇都宮大学副学長（総務・財務担当、2001年12月～2004年3月）と要職を歴任し、全学行政においても辣腕を奮っていらっしゃいました。とりわけ法人化に向かう大きなうねり（逆風）の中で副学長をお引き受けになったことについては、「ちょっとした好奇心。国策の中に身を一度くらいは投じてみるかという…」と簡単におっしゃっています。先生特有の照れ隠しだと思いますが、私には、そんな「好奇心」を支える先生の大学への深い愛情と使命感を感じずにはえません。

そして、休む間もなく、先生は2005年から今日まで、学部長として我々のためにまさに身を粉にして働いてくださいました。博士課程設置をはじめ我々に残してくださった大きな遺産は数えきれないほどです。そして、わがままな教員集団を束ねることは本当に大変な仕事だったと思います。しかし、先生はけっしてトップダウンで意思決定するのではなく、対話を重視しながら、事を進めようとしていたように見えます。もちろん、先生の識見、判断力、実行力からすれば、トップダウン方式でも十分結果は出されたでしょうが、草の根や弱者の立場にたつ先生のご理念がそうしたやり方を選ばなかったのだと思います。一教員の立場からすると、学部長という少し距離感を感じるものですが、先生に対してはいい意味でそういう意識はまったくなく、むしろこちらから気軽に声をかけてしまう雰囲気があります。これも先生のそうしたお考えとご人格の賜物でしょう。先生からすればご迷惑なことだったかもしれませんが…。

先生は、こうした要職を精力的にこなす一方で、研究・教育面でも大きな業績を残していらっしゃいます。主な研究業績として、『MEの時代・造船のレクチャー』（単著、中央法規出版、1986年）、『東南アジア都市化の研究』（共著、アカデミア出版会、1987年）、『ハイテク化と東京圏』（共著、青木書店、1989年）、『都市と産業のリストラクチャ』（共著、中央法規出版、1993年）、『新版社会学—現代日本社会の研究・上』（共著、文化書房博文社、1995年）、『開発と地域変動』（単著、東信堂、1998年）、『講座社会学5 産業』（共著、東京大学出版会、1999年）『高田保馬』（単著、東信堂、2002年）などがあり（『高田保馬』の奥付を参考にさせていただきました）、その他にも、無数の学術論文や報告書などがあります。そうした長年にわたるご研究が認められ、1999年には、『開発と地域変動』により、博士号（社会学）（専修大学 社会第1号）を授与されています。また、1999年11月から2002年11月まで日本労働社会学会副会長をお勤めになりました。

先生の修士論文は『高田社会学研究』だったそうですが、30年後にこの戦前の社会学の巨星について単著を刊行なさっています。まさに研究の原点に立ち戻るといえるのはこのことでしょう。批判的な眼差しで高田保馬を論じる先生の切れ味のよい筆致を味わいつつ、まったく門外漢の私にとっても、社会学の面白さと先生の思想に触れることができます。北島滋という社会学者の魅力の一端を知ることができる大変読みごたえのある作品です。

先生は、学部や研究科の授業では、「地域社会論Ⅰ」「産業社会学」「地域社会論Ⅰ実習」「開発と地域変動」「フィールドワーク実習」などを担当しておられ、先生の研究室・資料室には、先生のお人柄に引き寄せられるかのように、ゼミ生や院生はじめ多くの学生がいつも出入りしていました。厳しくも楽しい教育実践の風景がそこにあったという印象を持っています。

先生が国際学部をお去りになるという現実を受け入れることは、我々の気持ちの問題としてはそう簡単な

ことではないでしょう。先生にこの上ない感謝を申し上げるとともに、先生にはいつまでも国際学部・研究科を見守っていただき、かなうことなら、再び大学内で先生にお声をおかけしたいと強く願う次第です。

平成 20 年 11 月 3 日

国際社会学科長 今 井 直

北島滋先生の略歴と主要な業績

略 歴

1944年 1 月	北海道に生まれる
1968年 3 月	小樽商科大学商学部経済学科卒業
1971年 3 月	法政大学大学院社会科学研究科社会学専攻修士課程 修了
1976年 3 月	法政大学大学院社会科学研究科社会学専攻博士課程 単位取得退学
1976年 4 月	旭川大学経済学部講師
1978年10月	旭川大経済学部学助教授
1983年10月	宇都宮大学教養部助教授
1989年 8 月	宇都宮大学教養部教授
1994年10月	宇都宮大学国際学部教授（現在に至る）
1994年10月	宇都宮大学評議員（1998年 3 月まで）
1999年 3 月	宇都宮大学国際学部国際社会学科長（2001年 3 月まで）
2001年12月	宇都宮大学副学長（総務・財務担当）（2004年 3 月まで）
2005年 4 月	宇都宮大学国際学部長（現在に至る）



所属学会

日本労働社会学会 地域社会学会

研究活動

（著書）

1. 日本の経営・地域・労働者 下巻（共著） 大月書店 1981 年 1 月
2. 創造としての企業集団・地域（編著） 時潮社 1985 年 11 月
3. MEの時代・造船のレクチャー（単著） 中央法規出版 1986 年 6 月
4. MEの時代・ME時代の基礎知識（共著） 中央法規出版 1986 年 8 月
5. 東南アジア都市化の研究（共著） アカデミア出版会 1987 年 2 月
6. 社会変動と人間（北川隆吉教授還暦記念）（共著） 時潮社 1989 年 1 月
7. 伝統と新しい波（共著） 時潮社 1989 年 2 月
8. ハイテク化と東京圏（共著） 青木書店 1989 年 7 月
9. 都市と産業のリストラクチュア（共著） 中央法規出版 1993 年 10 月
10. 新版社会学・現代日本社会の研究（共著） 文化書房博文社 1995 年 9 月